

埃及懷古（塩谷節山）
エジプトかいこ
しおのやせつざん

三角陵は 荒れて 歲月 悠かなり
さんかくりよう あ さいげつ はる

怪神像は 古りて 沙丘に 没す
かいしんぞう ふ さきゅう ほつ

帝魂 返らず 繁華 尽く
ていこん かえ はんか づく

唯 大江の 旧に 依つて 流るる 有り
ただ たいこう きゆう よ なが あ

三角陵荒歲月悠 怪神像古没沙丘
帝魂不返繁華盡 唯有大江依舊流

解説 欧米歴訪の途次、エジプトの首都カイロの郊外におけるピラミッドなどの跡を訪ねたときの作。

語釈 ※埃及Ⅱアフリカ大陸のアラブ系の共和国。

※三角陵Ⅱピラミッド。 ※怪神像Ⅲスフィンクスのこと。

※帝魂不返Ⅱ王の靈魂はもどつてこない。 ※繁華盡Ⅱ栄えた古代エジプト文明も今は滅んでしまった。 ※大江Ⅱナイル川。

通釈 ピラミッドは荒れはてて、月日の経過のはやさが思われる。スフィンクスもまた古びて半ば砂丘の間に埋もれてしまっている。古代の帝王の靈魂は再び生きかえることもなく、当時のはなやかなエジプト文明も跡かたもない。今はただ、ナイル川が昔ながらに流れているのを見るだけである。